

ふるさと温海会設立30周年記念

# 会報 あつみ

特集『小国に残る弓射と戦国の庄内』

第29号

平成27年5月24日発行



## 鶴岡市指定民俗文化財 『小国八幡宮弓射神事』

小国地区に440年余りに渡り伝わる神事。2月22日（日）旧小国小学校において奉納されました。袴姿の6人の射手が昔ながらの射式に則り矢を放ち、見事的に的中すると採振り役が唱える「あた〜り」の声に合わせ、観客から大きな拍手と歓声如山々に鳴り響いていました。（写真：悪魔祓い、五穀豊穡を願って天空に向かって鏑矢を放つ「奉射的の式」）

ふるさと温海会  
設立30周年を迎えて



ふるさと温海会  
会長 五十嵐 長次  
(関川)

ふるさと温海会会員の皆様、旧温海町の皆様、温海会を支援してくださる関係者の皆様、おかげで、ふるさと温海会が発足して今年で30周年を迎えることとなりました。

これも常日頃から皆様のご支援とご協力を賜っているおかげと、深く感謝致しております。

設立当初は、発起人で事務局となつた旧温海町も、どの程度の方が会員として参加するか心配しながら、各自治会長さんを通じて温海町出身で首都圏に在住する方々の名簿作りから案内の發送、総会の進行までお膳立てはすべて町役場が実施し、大変な盛況だったと伺っており、当時のご苦労がしのばれます。

当初は、温海会単独の活動のみだったものが、現在では庄内ふるさと会、山形県人東京連合会と連携した様々な活動を通じて、相互の絆を深めつつ故郷を語り、故郷を応援する大きな広がりを持った組織で動くようになり、集いはいつも大きな賑わいをもたらすし、故郷との絆と応援の輪もさらに大きくなりつつあります。

ふるさと温海会設立30周年記念

総会・交流会のご案内

とき：7月5日(日)午後0時30分  
ところ：千代田区 霞ヶ関ビル35階  
「東海大学校友会館」 会場案内18P  
会費：男性8,000円 女性7,000円  
夫婦参加の女性・80歳以上5,000円  
出演：  
➢ 演歌歌手 北見恭子さん(村山市出身)  
➢ 日本舞踊 花柳真菊鳳(本間セツ)さん  
➢ 郷土芸能 ワッパ舞(温海地域楨代)

※今年は温海地域27自治会の会長さんも参加されますので、多くの方々の参加をお待ちしております。

今年には山形県人東京連合会が、故郷訪問として初めて6月30日から7月1日に大型バスをチャーターし、庄内を訪問します。就職等で若くして首都圏に移った会員が大部分です、故郷とはいえ意外と知らないことが多く、同じ県内でも文化は大きく異なります。県民性と称し、すべてひとくくりにして語りたがる事がありますが、見ると聞くとでは大違いです。  
日本をこれまでに発展させたのは、私どもはごくくんだ地方の力です。地方には独自の文化という大きなエネルギーがまだ沢山宝のように眠っています。外国人が日本の様々な文化を求め大挙してやって来る今、私どもがそのエネルギーに気付いてなかつたら残念です。この宝を求めて、先ずは馴染みのある故郷に目を向け旅してみませんか。  
ふるさと温海会は、先人の志をより発展させ、次代のトレンドを見失うことなく、会の歩みを後世に伝える

るべく、この記念すべき7月5日(日)12時30分開催、霞ヶ関ビル35階での第30周年総会を迎えたいと思っておりますので是非ご参加くださるようお願いいたします。

売却・住み替え等、  
不動産のことなら

昭和35年 創業  
(社)全日本不動産協会会員  
(社)不動産保証協会会員  
宅建免許都知事(15)2261号  
建設業許可(般-22)3646号

画・わたなべ ひろこ

お気軽にご相談下さい。

株式会社 原田企画

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨2-1-17  
電話：03-3910-8311 FAX：03-3910-8312

代表取締役会長 原田 太吉 (宅地建物取引主任士)  
山形県人東京連合会会長・元豊島区議会議員

花 笠 踊 り 発 祥 地

首都圏尾花沢会 会 長  
首都圏尾花沢会事務局 事務局長  
山形県人東京連合会 常任理事

有限会社 原田工務店 代表取締役

原 田 忠 吉

〒121-0062 東京都足立区南花畑 2-23-3  
自宅電話 03(3883)9685 FAX03(3860)2233

お祝いの言葉



鶴岡市長  
榎本政規

ふるさと温海会が設立されてから30周年の節目の年を迎えられますこと、心からお祝い申し上げます。

貴会は、昭和61年に設立以来、会員相互の親睦融和と福祉の増進を図られるとともに、ふるさとである温海地域の振興発展はもちろんのこと、鶴岡市政全般にわたりご理解とご協力を賜り、衷心より深く感謝申し上げます。

さて、今年度本市は、平成17年に市町村合併を行ってから10年の節目を迎えます。本市には、それぞれの地域に今でも残る深い歴史や文化、豊かな自然など、多くの資源が残されており、市町村合併以降、本市のまちづくりについては、こうした地域資源や特性を生かした取り組みを進めてまいりました。

温海地域においては、恵まれた自然環境の下、美しい温泉街の振興発展を図るため、温海川沿いの「かじか通り」の整備をはじめ、楡引地域の黒川能と温海地域の山戸能が共演する「せせらぎの能」の開催や平成



特産「焼畑あつみかぶ」の収穫(一霞)

24年3月に日本海沿岸東北自動車道の温海鶴岡間が開通したことを契機とした観光誘客など、多彩な取り組みを進めてまいりました。こうしたことも踏まえ、昨年開催された山形デザインেশョンキャンペーンでは、多く観光客が訪れており、地域の皆様と協力しながら進めてきた成果が表れてきたものと認識しております。

今後は、日本海沿岸東北自動車道の新潟山形県境区間の事業化が平成25年5月に決定しておりますが、この一日も早い整備促進について運動を進めるとともに、しな織の販売促進としなの花を使った新たな商品開発、福栄地域に地域おこし協力隊を配置し、中山間地域の活力増進を図ってまいります。さらに、平成28年度には天皇・皇后両陛下をお迎えし、山形県で全国豊かな海づくり大会が開催されることと決定しております。本市では、鼠ヶ関を会場に放流・海上歓迎行事が行

関東一円の福祉施設で今年21年目の巡回映画上映をしている「横浜映画ボランティアクラブ」



板垣 勘二  
(楨代)

【目標1500回 現在1549回達成】  
活動場所 養護老人ホーム・福祉作業所  
老人クラブ、学童保育、子供クラブ等  
連絡先/横浜市金沢区片吹 47-16  
〒236-0055 TEL&FAX 045-782-9056  
qqd456t9@peace.ocn.ne.jp  
勤務 東洋観光(株) 特別支援学校 介助員

われる予定であり、これを契機として本市の豊かな海産物についてもアピールしてまいりたいと考えておりますので、皆様には引き続き、ご理解とご協力を賜りま  
すようお願い申し上げます。  
また、本市は平成26年12月にユネスコ創造都市ネットワークの食文化分野への加盟が認められ、食文化分野では日本で初めての認定都市となりました。先人の弛まぬ努力により保存継承されてきた本市の優れた食文化をより一層発展し、そして後世に伝えていくため、食文化都市としての世界的なネットワークを通して、「温海かぶ」や「だだちや豆」をはじめとする豊かな食材や伝統的な料理を生かした地域づくりを進めてまいりますので、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。  
結びに、ふるさと温海会の益々のご発展並びに会員皆様のご活躍をご祈念申し上げます。

温海嶽(標高 736m)  
を守る・生かす  
温海嶽の会

◎一報いただければご案内します  
会長 佐藤 利克  
〒999-7204  
山形県鶴岡市湯温海甲 32  
電話 0235-43-2607



山形県「鶴岡ふるさと観光大使」  
トラットリア・ロアジ(東急尾山台徒歩3分)  
オーナーシェフ 佐藤 幸雄  
〒158-0082 (湯温海)  
東京都世田谷区等々力4-8-1-2F  
TEL... 03-3703-2662  
FAX... 03-3703-2779  
HANDY... 090-4025-0381

厳選された自然な温海かぶの味をそのままに宅急便で直ぐ届けます。

販売 11月下旬~売完まで  
JA温海支所赤かぶ部



〒999-7206

榎本 幸一

美志子

(出身小国)

山形県鶴岡市小菅野代 151

電話 0235-45-2341

(榎本久蔵提供)

奥の細道頭彰標柱(案内板)  
建立事業



地域づくり団体「あつみ塾」代表 奥井良幸 (温海)

俳聖松尾芭蕉が陰暦元禄2年3月27日に江戸を立ち「耳にふれていまだ見ぬ」みちのくの歌枕、名所を訪ねつつ一六一日にわたる「奥の細道」行脚に旅立ちました。

芭蕉と随行した弟子の曾良の二人は6月26日に大山をたつて由良で日本海に抜けて温海の鈴木惣左衛門宅に旅装を解きました。当時の鈴木家は天井の極(たるき)や廊下の板敷まで漆塗りで黒光りして鏡のようだったと伝えられています。

奥の細道の書き起こしは「月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人也」は芭蕉が旅を愛し、自分も又時の流れをよぎる漂泊人であることを自認し、そこから寂をさぐる楽しみに徹している姿を、今に生きる人々も共鳴して芭蕉が歩いた出羽路を訪れる人がひきまきりません。温海の芭蕉宿泊場所になった鈴木家にもそうした芭蕉ファンが個人、グループ並びに団体等で多数訪れています。

現在、鈴木家の前には芭蕉が宿泊した事を示す標柱は建立されていますが、訪れた方が更に芭蕉への思いをはせると共に、詩情に浸りながら、尚一層思いが深いものにしてもらう為と、加えて巨大



元禄2年(1689年)芭蕉が宿泊した鈴木所左エ門宅跡の奥の細道頭彰標柱(案内板)

な物質文明に支えられて現代社会は発展の一途をたどっています。このような社会に暮らす私達はあまりにも今日的な問題にのみとらわれすぎて古い文化などをじっくり見つめることをおろそかにしがちですが、そうした状況の中で地域の尊い歴史に光をあて、子供達や地域の方への教材として活用していただき、尚かつ芭蕉の旅心を偲び、山形の豊かな自然や人情、食文化などを知っていただく観光スポットの一つとして活用すべく案内看板建立を企画しました。

看板建立に引き続き、次の計画として案内パンフレット作成、案内ガイドの育成や芭蕉に関する展示施設の整備等を検討しています。

本事業を契機に設立した地域づくり団体「あつみ塾」では温海地域でも人口減少、少子高齢化や世帯数減が続いており、街としての機能や活力の低下が危惧

されていますので、街の将来像を住民同士がワークショップ等をしながらか話し合い、もつと地域を良くしようという熱意で地域づくり活動を始めており、ふるさと温海会や鶴岡市温海岸舎、地域の方等の支援をいただきながら、ここに播いた一粒の種が花開き、未来につながっていければと考えています。

芭蕉は温海では句を読んではいませんが、国道七号塩俣岩前に「あつみ山や吹浦かけてゆふ涼み」の句碑があります。訪ねていただき芭蕉の旅情と風雅に思いをはせていただければと思います。

ふるさと温海会会長

山形県人東京連合会理事  
薩摩士魂の会会員  
(南州翁遺訓英訳本を高校教科書に!!)  
西郷隆盛生誕祭共同発起人  
(上野西郷象前 12月第一日曜開催)  
国際融合文化学会会員  
(古典芸能文化の国際交流)

五十嵐 長次

小売店【たばこ・パン・菓子・食料品・米・酒】等



代表 五十嵐 邦子 (木野俣)

〒245-0053  
横浜市戸塚区上矢部町 504-2  
TEL・FAX 045-812-6039

内外装タイル工事  
外溝工事一式

マサキタイル  
代表 庄司 政樹

(横代)

〒289-1104  
千葉県八街市文達 297-51  
TEL&FAX 043-442-7767  
携 帯 090-3330-7501

産地直送 国産材使用

美人のふる里から  
木ごころの良い家造り  
今庄内あつみ杉  
で、心も美人に  
安全快適住まい



ご相談・お問合せは、安心と信頼の

株式会社本間工務店  
TEL0424・71・3600



自然体験温海コーディネットのブース  
ミニしな織機による実演

平成26年12月12、13日東京ビックサイトで開催された「エコプロダクツ2015」に参加しました。五十嵐長次会長からの応援依頼と定年まで勤めていた会社も環境問題に取り組んでいたことで多少の関心がありました。12日朝10時に温海庁舎出展ブースに到着。ブース内では温海庁舎総務企画課五十嵐勇一課長はじめスタッフの方が実物の六分の一程度の大きさの「しな織機」



ふるさと温海会  
事務局長 剛喜  
五十嵐 剛喜  
（越 沢）

エコプロダクツ2015  
in 東京ビッグサイト

を設置していました。試食用「赤かぶ」は程よい大きさに裁断されお皿に盛り付けられ準備完了。私の応援業務は温海地区の観光案内、「しな織」の説明、「赤かぶ」のPRでは、付近に来られた方に「焼畑農法」の説明と試食して頂く事です。来場者は小学生から企業でエコ関係に携わる方まで様々な方です。五十嵐勇一課長のお話では昨年は3日間で17万人の方が来場されたそうです。

「しな織」は小学生、中学生の女生徒が興味を持ち実演して行きます。織り上がった「しな織」はスタッフの方が葉（しおり）に使えるように幅3cm位に裁断し紐をつけて渡します。「赤かぶの試食」も好評でした。試食された方は焼畑農法に感心し赤かぶの味に満足されます。新潟県胎内市出身という奥様は子供の頃食べたそうで懐かしい味ねと食べて行かれました。印象に残ります。

「エコプロダクツ2015」のテーマは『見つけよう未来を変えるエコの知恵』でした。温海の出展ブースの左隣は沖縄県の自然環境パネル展示。右隣は電機技術者OBの方達の廃品を利用した発電機の展示。右前のブースでは残念ながらもまだ終息の見えない福島原発周辺「南相馬の環境レポート」を配布していました。

**庄内日報**  
「ふるさと」丸ごと届けます。  
**東京支局長 足達 哲郎**  
購読のお申し込みは・東京支局  
〒270-0034 千葉県松戸市新松戸 7-222  
西パークハウス D-408  
購読1ヶ月 2,000円(郵送料金含まず)  
TEL...047(341) 4872  
FAX...047-309-0053  
E-mail tokyo@shonai-nippo.co.jp  
鶴岡本社 TEL 0235(22)1480(代)  
〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町 8-29

また前面のブースはヨーロッパの「バイオマスエネルギー活用」の視察報告」のパネル展示と報告書配布がありました。色々の環境悪化は頭が痛くなります。  
幸い「ふるさと温海」は温泉の湯温海、日本海に接し清らかな海と豊富な海産物を産出する鼠ヶ関港等の海、摩耶山等周辺の山々につつまれた美しい里山風景があります。山戸能等の文化遺産は温海の財産です。温海の自然、文化財産を活用し将来も公害の無い安心、安全な夢のある町を作る。そして世間に情報発信出来るように庁舎の活躍は必要不可欠なことです。が首都圏在住の我々もなにかの行動が必要です。エコプロダクトに参加し社会の変化に触れる事も第一歩でしょう。次回は役員各位の参加をお願いします。(完)

**菊池 信雄**  
(五十川・90才)  
〒175-0082  
東京都板橋区高島平 9-37-4  
TEL&FAX 03-3935-8324

**KG** 一般工業用ゴム製品販売  
各種ゴムパッキン製作加工  
有限会社 角屋ゴム工業所  
東京藤島会 副会長 観光大使  
会長 **角屋 明**  
AKIRA KAKUYA  
墨東ゴム工業会会員  
本社〒131-0042  
東京都墨田区東墨田 2丁目 22-1  
TEL (03)3618-0984  
FAX (03)3618-0966  
倉庫 〒131-0041  
東京都墨田区八広 5丁目 19-2

**齋藤六郎税理士事務所**  
相続税・贈与税・財産評価  
親切丁寧相談  
税理士 **齋藤六郎**  
事務所 〒175-0092  
東京都板橋区赤塚 1-6-5  
福新ビル 201  
携帯電話 090-2207-6035  
F A X 03-6904-1402

日本海沿岸東北自動車道(日沿道)  
沿線市町村建設促進大会に参加して



ふるさと温海会  
会計理事  
五十嵐公次  
(峠ノ山)

日本海側の大動脈であり、日本海側と太平洋側のバランスの取れた機能分担、相互補完的な役割を担うと同時に活力ある国土づくりにより大きく貢献していくため極めて重要な道路といえます。

平成26年11月6日(木)、千代田区の「ホテル ルポール麹町」において、山形、新潟、秋田の三県の知事・市町村町の首長又は代理の方々、関係者の方々が集まり「建設促進大会」が行われました。

参加者は三百五十名と、会場は超満員の状況であり、ふるさと温海会からは五十嵐長次会長と五十嵐公次会計の二名で参加しました。

主催者側の挨拶のあと各県知事(代理)からご挨拶をいただき、それぞれ地方が抱えている問題点と、主に観光にかかわる「日沿道」全線開通に向けての熱い思いを伺いました。来賓として三県出身の国会議員の方々(代理秘書の方々も多かった

が)や関係省庁である国土交通省や高速道路建設協議会・四県議会協議会から応援のメッセージをいただき、祝電も披露されました。その後、意見発表が庄内地区同盟会からなされ、新潟地区同盟会代表の決意表明を全員で採択し、無事、建設促進大会は終了しました。

昨年は、新潟・山形県境区間、山形・秋田県境区間については、新規事業化され、悲願の全線開通に向けたスタートしました。不幸にして発生した四年前の東日本大震災の事例を見ても、災害発生時の迂回路を確保し救急医療活動や物資の安定物流ルートを確保するためにも「日沿道」の重要性は明らかです。高速道路は繋がってこそ本来の効果を最大限発揮できるものであり、その意味でも全線の早期開通が望まれます。

ふるさとの温海ではあつみ温泉インターチェンジと鶴岡間が一昨年開通、新潟県の朝日インターチェンジと温海間のルートが確定し着工の見通しがつきました。温海が単なる通過点にならないよう、鼠ヶ関インターチェンジ(仮称)については、豊栄PAから秋田県西目パーキングエリアの約200km区間にトイレや食堂、ガソリンスタンドが整備された休憩施設が無いことから、イオンタウンの小名部側にフル企画で設置し、地

域の住民も活用できる施設を検討中とのことで、「ふるさと温海会」も引き続き支援を行って行きます。



日本海沿岸東北自動車道の予定ルート

山形県人東京連合会理事  
ふるさと温海会顧問

佐藤 重助  
(浜中)

〒207-0014

東京都東大和市南街3丁目33-1

TEL 042-561-2705

人にこたえる住まいづくり

財団法人住宅保証機構認定業者 登録番号 10011448  
横浜市木造住宅耐震改修促進事業 登録番号 30  
一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第10651号

**株式会社 五十嵐工務店**

〒223-0053 横浜市港北区綱島西3丁目28-16

TEL045(540)2821 FAX045(540)2822

お客様専用ダイヤル ☎ 0120-78-2821

鍋倉出身

宅地建物取引業 神奈川県知事許可(6)第18212号

**株式会社 コンチネットホーム**

TEL045(540)1130 FAX045(540)1136

(株)五十嵐工務店・(株)コンチネットホームの五十嵐 敏(鍋倉)社長はふるさと温海会副会長として協力しております



上田邦義氏(静岡大名誉教授)  
叙勲おめでとうございます



教授 上田邦義氏  
(静岡大名誉教授 上田釜谷)

平成27年春の叙勲でふるさと温海会会員の**上田邦義氏**(80歳・静岡大学名誉教授)が**瑞宝中綬章**(教育研究功勞)を授章しました。

上田氏は、**木野保生**生まれの**釜谷坂育**ちで、東京教育大(現筑波大)大学院文学研究科修士課程を修了後、静岡大に勤務し、1973年から2年間、ハーバード大にフルブライト研究員として渡米し、マサチューセッツ、タフツ大で教壇にも立ちました。シェークスピアが好きで、能での作品上演を模索、自らも習いながら原文での台本を考え、82年に静岡市内の料亭で「ハムレット」を演じました。また、「夏目漱石が提唱した「シェークスピア能」を約70年の年月を経て実現させました。

英文を教わり、天皇陛下の家庭教師、「人間宣言」草案者ブライズ氏の半生などを記した著書も発行されており、現在は国際融合文化学会会長として、世界の文化の調和活動などにも取り組んでおります。会員としては昨年の五十嵐源次郎氏(一霞)に次いで2人目となります。誠に改めてどうぞございます。今後益々の活躍を祈念いたします。

たくさんの方の善意を  
ありがとうございます

福祉募金贈呈

26年度総会・交流会でご寄付いただきました**福祉募金**六七、六〇〇円を、7月8日(火)鈴木支所長から、あつみ温泉の入口にある鶴岡市社会福祉協議会が運営する**デイサービスセンター**愛寿園の本間とし子園長に贈呈しました。

愛寿園では、利用者一人ひとりの意欲を引き出し、また、發揮できるようにすること、その人が生き生きとした生活を継続できるように支援することを運営方針にしております。

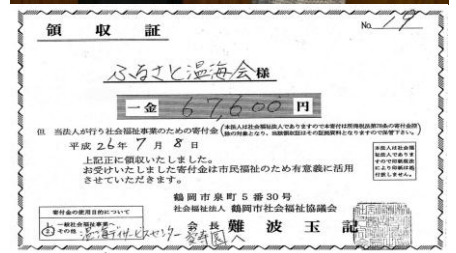
今回の募金をいただき、利用者の皆さんが手軽に楽しめ、体力づくりにもなるように「スカットボール」という軽スポーツ用品を購入し、利用者から大変喜ばれているそうです。今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



スカットボールを楽しむ  
愛寿園利用者の皆さん

**山本会計行政書士事務所**  
 経理受託・相続対策  
 懇切丁寧・迅速相談  
 税理士・行政書士  
**山本 洋子**  
 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 5-1-5  
 第二春谷ビル 3A  
 TEL.03(5951)6081 FAX.03(5951)6083  
<http://www.yy-sozoku.jp>  
<http://yamamoto-taxoffice.com>

**坂元税務会計事務所**  
**坂元 鐵平**  
 (温海出身)  
 税理士  
 事務所  
 〒228-0011  
 神奈川県座間市相武台  
 3丁目27番44号  
 三協相武台駅前ハイツ 207号  
 電話(046)253-6049 番(代表)  
 FAX(046)256-7594 番



**IT&ONE** Computer & IT & One to One  
 CSR  
 ONE TO ONE  
 エレクトロニクスの総合商社  
**株式会社 栄電子**  
 会長 梁谷 英雄

栄電子は、人と情報技術で **ワン・ツー・ワン サービスと社会貢献に務めます**

栄電子は、蓄積されたノウハウ、技術力、情報力を駆使し、お客様一人ひとりに役立つきめ細かなサービスを提供すると共に、常にCSR(企業の社会的責任)をこころがけ、バランスのとれた社会貢献を目指してまいります。

ISO認証取得(ISO-14001)

《取引メーカー》..... ●アバゴ・テクノロジー(株) ●イーター電機工業(株) ●(株)沖田製作所 ●KECジャパン(株) ●ザイリンクス(株) ●三洋電気(株) ●タイコエレクトロニクスジャパン合同会社 ●中央電子(株) ●TDK(株) ●TDKラムダ(株) ●日本圧着端子製造(株) ●ハーティング(株) ●ピーアイ・テクノロジー・ジャパン(株) ●マイコム(株) ●(株)マックエイト ●パナソニック電工制御(株) ●山一電機(株) ●(株)ワールド

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-9-10 TEL.03-6385-7240 FAX.03-3255-7801 URL:<http://www.sakae-denshi.com>



# 市と市民を結ぶホットライン

平成27年度の自治会長さんを紹介します。行政と市民のパイプ役としてよろしくお願いします。



一霧  
五十嵐 金悟さん



温海温泉  
遠田 茂昌さん



湯之里  
千葉 吉晴さん



釜谷坂  
佐々木 秀雄さん



温海  
小玉 宮雄さん



暮坪  
奥井 厚さん



鈴  
佐藤 静夫さん



五十川  
本間 厚さん



安土  
本間 清治さん



小菅野代  
齋藤 啓さん



宮名  
本間 勉さん



浜中  
佐々木 敏一さん



楨代  
庄司 新助さん



鼠ヶ関  
佐藤 眞紀子さん



鍋倉  
五十嵐 光男さん



小名部  
寒河江 茂雄さん



早田  
本間 廣光さん



小岩川  
榎本 悟さん



木野俣  
五十嵐 正直さん



温海川  
忠鉢 孝喜さん



越沢  
野尻 善共さん



関川  
五十嵐 正さん



小国  
平形 和政さん



峠ノ山  
五十嵐 傳市さん



山五十川  
佐藤 三吉さん



戸沢  
伊藤 玄一さん



菅野代  
榎本 豊雄さん



鶴岡市議会  
副議長  
五十嵐庄一さん  
(平沢)



鶴岡市議会  
議員  
本間新浜衛さん  
(山五十川)



鶴岡市議会  
議員  
五十嵐一彦さん  
(鼠ヶ関)



鶴岡市温海庁舎  
支所長  
鈴木金右エ門さん  
(山五十川)



温海町森林組合  
組合長  
大井喜助さん  
(温海川)

そぞろ歩きまの楽しい温泉街ち  
**あつみ温泉**

あつみ観光協会  
〒999-7204

山形県鶴岡市湯温海甲 306  
TEL 0235-43-3547  
FAX 0235-43-3417  
<http://www.atsumi-spa.or.jp/>



JA庄内たがわ  
温海支所長  
佐藤茂春さん  
(朝日地域)



あつみ観光協会  
会長  
若松邦彦さん  
(湯温海)



出羽商工会温海支所  
代表理事  
佐藤満也さん  
(湯温海)



道の駅「あつみ」  
しゃりん支配人  
佐藤直司さん  
(鼠ヶ関)

ふるさと温泉会30周年に出演  
郷土の伝統芸能  
**楨代のワツパ舞**



者二人がコメの詰まったワツパ(曲げ物の弁当箱)二つを両手に持ち、太鼓に合わせワツパを上下に動かし、体を回転させたりする独特の奉納舞です。この神事はその年の五穀豊穡を祈願するものですが、ワツパからこぼれるコメの量で、その年の農作物の豊凶が分かるといいう言いが伝わります。

楨代に伝わる「ワツパ舞」は、毎年5月1日の大鳥神社の例祭で行われる神事で、獅子舞が奉納された後、白装束の若

道の駅「あつみ」  
夕陽のあつみふる里物産館  
しゃりん

鶴岡市早田字戸ノ浦606  
Tel 0235-44-3211  
Fax 0235-44-3212  
mail: atsumi\_syarin@yahoo.co.jp

温海温泉せせらぎ能・  
庄内観光ツアーに参加して

鹿児島県垂水市 脇栄 一郎

私と五十嵐会長とは職場の同僚で、鹿児島出身ながら、戊辰戦争での庄内軍と薩摩軍との戦いの事も知らず、職場の関係で江戸川区と鶴岡市が友好都市であることから、山形県といえは鶴岡市ぐらいいしかりませんでした。用地買収にかかわる仕事柄から、厄介な法律問題の解決のため、五十嵐さんとしばしば話し合う機会が多く、お互いの故郷の事を親密に話すようになり、単なる同僚以上の関係になりました。そこで、薩摩と庄内の戊辰戦争がきっかけとなり、深い交流が続いていると聞かされ、鹿児島と庄内との並々



関川の友好の碑の前にて  
脇さん(右)と吉岡さん(左)

ならぬ関係を知り、庄内に深い関心を持つようになりました。

そのような事があり、昨年8月2日〜5日まで、せせらぎ能と庄内の観光ツアーに参加し、今回で3回目となり、すっかり温海温泉や庄内のファンになりました。

前日の1日午後鹿児島空港を発ち、翌2日朝明4人会長の車で目的地の温海温泉を目指しました。宿泊先の東屋まで9時間もかかりましたが、着くと早速宿には地元で町おこし活動をしている方から歓迎のお酒が届いており、細かい心配りに感激。何とかせせらぎ能に間に合い、鹿児島では考えられない涼しい川風を心地よく浴び、川面に写るかがり火を灯した能の幽玄な舞台をショッキのビールを片手に見とれました。翌3日は、初めて湯殿山に行き、巨大な岩から温泉が出る不思議なご神体にお参り、ここではよくへビが出るとの事で、へビに向かって拝んでいる白装束の参拝者を多く見かけました。その後、月山の雪渓が見えるところまで登り、広大な庄内平野をすべて見渡せる好天に恵まれ、絶景とききれいな花が咲き乱れるお花畑を散策し、鹿児島県で出羽三山のすべてに行ったことになるのは自分だけではないかとの重いが胸をよぎった。

この日は五十嵐さんの実家に泊まり、午前中は涼しい庭でゴルフ練習をして汗を流し、庭に湧き出る清水で冷やした尾花沢スイカを食べたり、戊辰戦争戦跡の碑や、しな織りセンターに

案内してもらい静かな庄内の時を過ごした。午後は鼠ヶ関に行き、「道の駅」で買い物、その後夕日を眺めて海岸を散策、鹿児島にはない浜茄子の真っ赤な実を見つけ取って後日鹿児島に種を植えました。

夏の日中は鹿児島よりも暑く、夜は朝はフトンをかけないと寒いぐらいで、寒暖の差には毎回驚いています。それが庄内の農産物の美味しさの元とかなで納得しました。

初回の時は、温海会理事の木村正子さんの、茶室を備えた実家に招かれ、生まれて始めて岩カキをご馳走になり、ご家族の皆さんともすっかり意気投合していました。木村さんの実家の歓迎してくれた弟さんが昨年秋に突然亡くなられたとの事。大変残念でなりません、ご冥福をお祈りいたします。せせらぎ能鑑能ツアーには、今年も参加すべく、鹿児島から羽田までの格安航空券を入手しました。今年も楽しみにしていますので宜しくお願いします。

「温海人」 発刊

旧温海町に焦点をあて、温海地区で昔から受け継がれた文化や風習、日常的な食生活などを取り上げることで、失われつつある郷土の文化を見直すことや、地域の足元にある沢山の宝物に更に関心をもっといただくことを目的にしています。

- 1.温海人として 最後の町長ほか
- 2.温海の4つの川と海側5つのエリアの文化・風習・伝統・くらしを伝える
- 3.未来のページ あつみ塾・湯けむり女子会・鶴岡まちづくり塾 温海グループ
- 4.温海憩いの場 チットモシエ・しゃりん
- 5.コラムと寄稿文 芭蕉巡礼 佐藤さん 五十嵐長次さん

B6版/全ページカラー 64ページ  
定価 1000円+税  
初版 1500部  
発行予定 2015年6月中旬頃  
発行所 アイスリー(株) (季学会部門)  
鶴岡市三原町 11-25-3

双樹会参与  
東京羽黒会  
半澤 満  
〒178-0063 東京都練馬区東大泉  
1-11-20 TEL・FAX 03-6760-7087  
(携帯) 090-1036-6708  
E-mail hanzawa.m@jcom.  
home.ne.jp  
http://members.jcom.home.ne.jp/hanzawa.m/

本場一霞の加藤靖昭が焼畑農法による竹炭入りの赤かぶ漬は、まろやかな味とおいしさが長持ち。!!

あつみ  
赤かぶ漬

元祖一霞かぶら  
洗わずにそのまま  
お召し上がりください  
丸漬と切り漬は両方共 350g  
〒999-7203 一袋 500円税込送料別  
山形県鶴岡市一霞字宮の前  
一霞工房 代表 加藤靖昭  
注文・問合せ TEL 0235-43-2323  
FAX 0235-43-2354



鶴岡市指定史跡「関川の戊辰役激戦地跡」

温海地域の南東部新潟県村上市雷集落と境を接する関川集落は、世帯数四十戸、人口百四十人の山村集落です。  
集落には国指定伝統的工芸品「羽越しな布」、ご存じ「しな織」が古くから伝えられてきました。  
「しな織」は、しなの木の皮を剥ぐところから、しなこぎ、しな績など、すべて手作業により気の遠くなるような工程を経て織り上げられます。現在は、しな織センター、ぬくもり館といった施設を拠点として、しな織まつりの開催やしな織音頭なども作られ、今や全国にその名が知られるようになりまし。この関川集落の歴史の中で忘れてならないのが、「戊辰戦争」です。明治初期、時代が激しく揺れ動く中で、薩摩、長州を中心とする官軍と、唯一抵抗を続けていた庄内藩の最後の激戦が繰り広げられた場所がこの関川でした。  
明治元年9月11日、官軍は新潟県側から山を越えて奇襲を仕掛け、激しい激戦の末官軍は関川を占拠しました。この戦いによる略奪と破壊、住居の焼失などにより、関川の住民は長い間貧困生活を余儀なくされたのです。集落内には古戦場跡や当時の刀傷が今も残されています。



関川自治会長 五十嵐 正

『悠久の里 関川 歴史ロマン 戊辰の役・関川の戦い』 発行



関川集落ではこの度「鶴岡市集落活性化事業」の採択を受け、地域コミュニティの元気づくりをテーマに取り組みることになりました。そこで、「戊辰の役」で大きな被害を受けたながらも、この地でたくましく集落を復興させ、現在まで守り続けてきた祖先の思いを受け継ぎ、これからの関川をさらに

貸事務所・貸店舗  
貸マンション・貸ビル業

**菊地ビル株式会社**

代表取締役社長 **菊地時雄**

〒144-0052  
東京都大田区蒲田 4-21-10  
電話 03-3733-8661(代)  
FAX 03-3733-8666  
第1～第25 菊地ビル

あみ鬼布 西バ布

**関川のしな織**

しな織センター

悠久の里 ぬくもり館

昔ながらのぬくもりが、ひっそりと息づく関川。人々の心をおおらかにゆめをかき混ぜる布は、季節で、多くを語りかける。

山形県鶴岡市関川222  
電話 0235-47-2502  
FAX 0235-47-2333

発展させることを誓うとともに、平和であることの大切さを噛みしめたいとの思いでこの冊子をまとめたものです。この冊子には、戊辰戦争をはじめとする集落の歴史や、しな織、べろべろもちなどの特産品、鹿兒島県大隅町との交流のことなどの他、住民のコメントなどもあり、関川の人々の我慢強さ、団結力が感じられる冊子となっています。これを機に関川集落の益々の発展が大いに期待されるところです。

**白井国際特許事務所**

弁理士 **白井重隆**

事務所 〒105-0001  
東京都港区虎ノ門 1-8-5  
平吉ビル3階  
TEL 03-3580-5908  
FAX 03-5532-8590  
携帯 090-1995-7244

「いい家」にこだわって夢と思いを形にする工務店です

**有限会社 佐藤工務店** 佐藤工務店一級建築士事務所

SAITO KOMUTEN

会長 佐藤清助 (鈴)  
棟梁 佐藤清雄 (鈴)  
代表取締役 佐藤喜夫

業務内容

- 木造軸組工法 設計・施工
- 木造住宅耐震診断・補強工事
- 長期優良住宅(200年住宅)
- 性能表示住宅
- レンガ外壁の家
- 無垢の家
- 健康・省エネ住宅
- 各種リフォーム工事

〒362-0031 埼玉県上尾市東町1-2-13  
TEL 048-771-7804 ホームページ: [www.satokomuten.com](http://www.satokomuten.com) 又は [佐藤工務店.com](http://佐藤工務店.com)

◆特集◆  
『小国に残る弓射と戦国の庄内』

五十嵐長次

鎌倉御家人から大泉荘地頭になり（一一八九年）、戦国時代の庄内南部を長く治めた武藤氏が、越後との国境近くに築城した小国城、その周辺には古来より弓射の習わしがあった。戦国末期や江戸時代の記録によると、鍋倉や峠ノ山、小国、温海川、木野侯、越沢、関川などから射手が集まり、神事として弓射が行われていたとされる。現在、鶴岡市や旧温海町内で神事弓が残っているのは小国弓射のみで、鶴岡市指定無形民俗文化財となっている。

近年まで鍋倉、峠ノ山では行われていたが、他では行われなくなり、



鍋倉弓祭（平成11年1月10日）

中止した時期も不明で、行われていたとの伝承すら途切れつつある。峠ノ山では明治時代に32回、大正時代に9回、昭和に入って13回、平成8年1月15日に、23年ぶりに峠ノ山八幡神社弓祭が開催された。

鍋倉には、昔から弓の名手がそろっており、殿の前で弓を射て賞賛され、褒美に弓を頂いたという。また戊辰の役では付近一帯が庄内勢の陣地になり、兵が駐まっていたとき、若者数名が弓を引いて見せたが、庄内兵達はそのうまさには驚いたという。村の若者の最も重要な行事であった弓祭りも、後年の形式は競弓に近くなり昭和33年に中止された。

▼弓の多様な役割

狩の道具から始まった弓矢は、獲物という恵みをもたらしてくるため、神聖なものとして取り扱われるようになっていった。そのため儀礼や祭礼でも多用されるようになり、さらにその神聖さは弓や矢を使った厄除け、悪魔払い、祈禱や豊作祈願、占いも行われるようになり、二組に分かれて技を競うときも、勝った方が神のご加護によるとする次第である。木の枝に紐を引っ掛けて弦を打ち弦音によって神を呼び邪気を払う、あずさ弓なども登場した。

鍋倉の「弓あずさびまき物事」の中にも、あずさ弓が出ており、弓あずさびの中での役割は不明であるが、こ

れには戦闘準備が万端であることを魔物に伝え、悪霊を遠ざける意味などがあつた。皇室においては現在も皇子誕生の際に悪霊を祓う鳴弦の儀が行われている。

弓射などの神事弓の多くは、旧暦の正月に行われる。これはすべてが新しく生まれ変わる大歳の日に、神々が丁重におもてなしをしてくれれば、福をもたらしてくれると考えられ、大晦日には家々でご馳走を準備して、神をお迎えする慣わしである。千葉県などでは、弓射が殆どなくなり、歩射↓御歩射↓訛っておびしや祭りに変化した。野田市の香取神宮では、ご神体の亀の甲を象った木型に穴を明け、手で矢を通す神事が旧正月に行われている。この氏子八人衆が共同で野田醤油組合を作り、後にご神体の亀は萬年生きるとされる事から、亀甲萬（キッコーマン）なる大手食品メーカーの社名になった。

▼大和朝廷の天下統一

蝦夷（エミシ）の夷は弓・人を重ねて弓を使う狩猟民を表し、北海道やサハリン等に定住し東北にもその末裔があり、八七八年には蝦夷（エミシ）の大反乱が庄内であった。大和朝廷が東北の統一をもくろんで武力による東征を試みたが、大型の野生動物をも弓で射止める高度な技術を持ち、ゲリラ同然の戦術を持つ彼

らに力の統治では対抗できず、現在の青森県と岩手県東側をエゾ村として保護し、蝦夷地の品々を交易させるなどして同化させた。

また、朝廷はこの当時、東北は金や様々な鉱物、弓の矢に欠かせない猛禽類の羽などが産出されるフロンティアと考えており、大物忌神（鳥海山）や月山神など山に高貴な従二位を授ける異例の措置をとり、陰陽師を現地に派遣し蝦夷の反乱を鎮めようとした。初期の政事は、武力と信仰にゆだねられ、国の意はその「軍尼」から来たとされる。鎌倉幕府も月山神などに高貴な従二位を授けることを引継いだだけでなく、鎌倉幕府は羽黒山を祈禱所とし、これが俗世の権力と強く結びつき武藤氏などの介入を許さなくなった。朝廷から幕府にまで崇められ、後には東の奥院別当として強大な勢力となり、庄内を治める武藤氏も三山の勢力には配慮せざるを得ない状態になっていた。

▼弓射や弓祭りに社がなくても

八幡宮を奉る理由

同じように、南九州（大隅国曾於郡等）では、大和朝廷に従わない勇猛果敢な薩摩隼人と呼ばれる人々の叛乱鎮圧のため、新羅渡来の鍛冶神を奉る鑄造技術者の金知識衆で、大分と福岡の間に多く住む帰化渡来人、泰一族につながる宇佐八幡宮の勢力「神軍」が出動し薩摩隼人を殺戮し



槓代その他にも小規模の楯があつたとされ、中世は自からの事は自ら守る他なく、庄内には約二百二十もの小さな城(楯)の城館跡があつた事が現在まで判明している。

しかし、有沢居城の30年以上前の永禄10年(一五六七年)、小国弓の起源となる巻物が小国に伝えられたとされ、峠ノ山の弓祭の起源も同じ年となっている。鍋倉の弓祭の起源も為朝(五人引の強弓を射る戦国武将、源為朝)の秘伝の巻物が伝わってからとされ、年代は不明ながら、形式等から同時代とされ、戦国時代に越後との国境の村々に、これほど弓射が発生していたことには、単なる神事を越えた、国境の地域が抱える戦乱に明け暮れる当時の時代背景が浮かび上がってくる。

▼上杉、武藤氏の不安定な実態と

小国と周辺の武装農民の弓射

乱世の戦国時代は、盗賊などが横行し、その身や財産を守るため農民も町人も自らを自らで守り、丸腰ではすまされず、多くは刀・槍・弓などの武器を持ち、農民なども求められるまま戦にも加わり報奨を得、戦利品を得ていた。そのため、戦国の世は農民、町人も戦のための弓などの武器を持ち、どの村にもいた半農半士の地侍の指示でいつでも動く即戦力になっていたことが必至だった。したがって江戸時代になると、武士

が領内の治安まで守り、農民、町人は自らの職業にのみ専念でき、米などの生産は新田開発が盛んになり飛躍的に増大し、商業活動も盛んになった。

小国弓の起源となる巻物が伝えられたのは、庄内が上杉領となる24年前のこと、庄内には、良港と出羽の中心として栄えた大泉莊園(庄内の呼称の由来)があり、最上も上杉もかねてより武藤氏を挟むようにこの領地を狙っていた。武藤義増は隣の本庄氏(村上城主)に加担して上杉に反旗を翻したが、永禄11年(一五六八年)上杉謙信に和を請い完全に服従し、以後は上杉謙信の威を借りた状態で庄内を支配していた。

しかし越後の阿賀野川から北の地を本拠とする揚北衆(あがきたしゅう、現在の新発田・胎内・村上市山北等)の各人衆の領地を、上杉は軍事行動や領土経営の基本になるにもかかわらず検地もせず、独立心が強く上杉への謀反の企て(村上城主本庄氏など)や、上杉の度々の遠征呼びかけにも応ぜず、参加しても国境警備程度で参戦を拒み抵抗を続け、「越後の龍、軍神」の上杉謙信も揚北衆に対しての統治には顔色をうかがう有様で、揚北衆領内に対して直接指揮命令する権限も無かったのではないかと「上杉家軍役帳」から歴史家は結論付け、しかも同役帳の半分は揚北衆の扱いに関する記録で、

上杉の意外な苦悩ぶりがうかがえるという。

一五七〇年には、庄内の反武藤派と通じた越後の大川氏(府屋城主)が庄内に侵入、庄内は両派に分かれ大混乱となった。そのため、主君上杉に対しても公然と謀反をたくらみ庄内にも侵入する揚北衆と国境で接して庄内を治める武藤氏の領土守備は非常に厳しく、上杉派であっても小国周辺の国境を守る歯止めにならないことが証明された。そのため、山岳地帯の越後国境防衛には配下の武士だけでは足りず、険しい地勢に通じたこの地域の農民を武装した予備軍として当たらせることが不可欠だったと考えられる。

しかも、上杉謙信の威を借り自信を得た義増の子義氏は、越後とは反対側の最上地方や秋田の由利地方に手を伸ばして衝突するなどの無謀さが、近臣前森蔵人の謀反を招き、庄内の豪族も一斉に蜂起したため鶴岡城から逃げ、主城にしていた尾浦城(大山城)が包囲されて落城し、武藤義氏は切腹した。武藤家は丸岡城主、藤島城主、羽黒山別当の丸岡兵庫が跡を継ぎ、武藤義興を名のつたが、最上の庄内侵攻により自刃。上杉家臣の本庄氏から迎えていた義勝は小国城に逃げ、実父本庄繁長の援軍を受け最上軍を逆襲し、武藤家は再興し庄内は事実上、上杉家臣本庄繁長(村上城主)の支配となった。

スポーツ障害・交通事故・労災・生保各種健康保険OK

## いがらし 整骨院

院長 五十嵐 雅博 (関川・元国体卓球最終選考選手)

TEL・FAX 03-5856-3693

〒120-0005


東京都足立区綾瀬 3-15-20-1F

地下鉄千代田線綾瀬駅下車北口徒歩3分

イトヨーカドー 横北 直進 二辻目

受付 9~12時 午後3~8時

日祭休診 土曜午後休診



## あつみ整体治療院

腰痛、膝、股関節痛、坐骨神経痛、特に下肢の筋力激減に直結する梨状筋症候群に根治法で対処

TEL0235-33-8363

FAX (5951) 6083

鶴岡市稲生町 2-33-67

戦乱で乱れた武藤氏の庄内領も秀吉の強引な検地（一五九〇年）に反対する一揆を扇動した嫌疑で庄内領を没収され、武藤家は消滅、一五九一年より上杉景勝の支配となった。それまで、百姓、町人も身の安全と財産を守るために所持していた武器は、太閤秀吉による強引な東北の検地、刀狩（一九五〇年）が始まり、武士以外は一切の武器の所持禁止としたため多くの武器が差し出された。しかし、差出帳には刀以外は記録もせず、本当の狙いは脇差し等の刀を所持することを厳しく禁じ、武士のみに帯刀を許す事による身分制度の確立が目的であることがわかった。

弓は禁じられず、有力農民については土地を丸腰では守れないため刀を持てる特権があり、神事の刀も所持を許された。刀狩の実施が村任せの所では、公然と持ち歩かなければ、警護等のため隠し持つことを黙認する領主もあった。したがって、小国に弓射の巻物が伝わった永禄10年（一五六七年）頃になると刀狩は浸透し、弓は農民が使える最大の武器となっていたと考えられる。

▼弓術の種類（略述）、江戸にも

三十三間堂はあった

日本の弓は一般に長弓で、世界的には短弓が多い、主に戦場での徒歩による弓射から発展した「歩射」、馬上から射る「騎射」、三十三間堂の通

矢から発展した「堂射」に分類でき、現在では、武射と札射に分けるのが主流で、小国の弓射は、時代や形式からして流祖の日置（へき）弾正政次（一四四〇〜一五〇〇？実在か不明）が確立した日置流の武射であるうとされている。

三十三間堂の通矢は、三十三間の距離をひたすら多く矢数を射ること、神事よりも競技に近い射法が江戸時代に流行し、藩をあげて天下一の輩出を競い財力の無い藩は出場が困難となるほどエスカレートした。そのことから江戸三十三間堂があった現地の江東区富岡を、古くは数矢町と称し、現在の江東区立数矢小学校の名は当時の射法が地名にまてなつた事をしのばせる。

江戸初期、浅草寺に京都三十三間堂を模した堂が建立されたが元禄11年焼失、江戸城から辰巳の方角にある深川は、江戸文化揺籃の地となり、江戸相撲発祥の地でもある深川八幡宮寺の境内に元禄14年に再築、明治5年まで百七十年にわたり多くの射手を迎えた。小国弓を発掘し最初にその真価を発掘した庄内藩士阿部宗蔵は、享保七年江戸深川三十三間堂の通矢を射た日置流弓術の名手で、享保20年正月15日小国村に入り、古記録を調査し大的を見学し、「殊に、我等と同流なり」と評したと伝えられる。当時の八代將軍吉宗治世の頃は、武芸熱が盛んで小国弓は、「藩内

で大変評判となった」と言われる。

弓は矢で決まり、矢は羽で決まるといわれるほど実践では弓削部（矢師、弓師）などの専門家によって作られたものを、高度に訓練された技術で射ることが必要であった。そのため実利の射として完成度の高い射術はその後も生み出されず日置流の影響力は非常に大きく、的中や矢の貫通力に重点を置く実利的な歩兵弓術を旨とし、これを基本としない武射は存続しえないといわれる。特に江戸時代の初期は、天下が平定されたことで武士の大リストラが行われ、武士として生き延びるには秀でた武芸に通じるほか無く、剣や弓などの武芸の修練に励んだ結果、様々な流派が各地で成立した。しかし弓射に限れば日置流で完成に至つたその実態には、大きな違いはなく江戸時代には各藩の抱えた弓術師範の射手は殆ど日置流だつたといわれる。

戦いで弓を引く事がない現在、日置流は日本弓道連盟に形として残るのみとなり、射方は形式重視の札射が中心となつている。

▼家康も農民を予備軍として 武装させていた  
愛知県三河地方に古くから伝わる「お祭り弓」と呼ばれる神事も、戦国時代、徳川家康は元康を名乗る頃に東海一の弓の名手となっており、百姓・町人に弓を引かせることを許可し予備軍を編成した事が始まりで、戦がなくなつた江戸時代に入ると社寺の維持費捻出等が目的の「勸進的」が開催されるようになったと伝えられる。

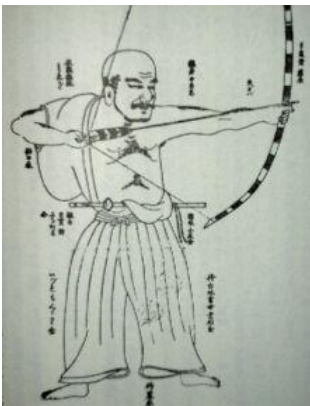
この地方は、「三河の張り弓」と言つて百姓が戦の予備軍として弦を張つたままの弓を持ち歩くことが許された最も武器の所持に緩やかな領地として知られている。

その他の地域は「遠州の裸弓」弦を張ることはできないが、弓を裸のまま持ち歩くことが許さ地方。「尾張の袋弓」袋に入れた弓を持ち歩くことが出来る地方などがあり、強力な武器であるがゆえに、農民や町人が弓を持ち歩くには地域を準備するための特別の事情のあつた事がうかがえる。

▼小国は覇権争いに揺れる

庄内南部最前線の砦だつた？

弓射が弓祭りとしても全国各地に庶民のものとして伝わっているが、神事のみではなく、戦国時代の庄内でも戦乱が多く、弓射を国境で庄内領を守るのに備えた軍事目的だつた



へきだんししょうまさつぐ 日置弾正政次  
(日置流射術の祖と言われる人物だが、その素性は謎が多い)

ことは前述のように推測できる。そのため国境に接した地域の農民は、常に戦に借り出される武装した農民だったといえる。実際に古くからの刀等の武器をそのまま仕舞い込んで居る家が多く、太閤の刀狩による兵農分離を強力に推し進めた後も、この地域の農民は刀などの武器を持ち続けていた。このことは、守りにくい地形と、名将の上杉さえ自領でその統率に手を焼く、越後揚北衆からの国境守備には予備軍として地理にも詳しい地元農民の力が不可欠なことから、この地域での兵農分離と刀狩の徹底が不可能だった理由と考えられる。

この地域で戦った戊辰戦争でも、各地で連戦連勝した庄内藩は、地元の地形を良く知らない庄内各地から寄せ集めの兵は、地理に不案内の薩摩兵が、道を通って進軍してくると思ひ込み、道沿いに集中的に布陣した。一方の薩摩兵は実践中心の郷中教育を受け、越後側の地形に詳しい地元民を先導役にして、道無き険しい山を越えて庄内軍の抵抗をまったく受けることなく進入しあつた気ない庄内の敗北となっており、地元民の活用が戦略の要となっている。

▼巻物として秘伝する根拠

鉄砲に比べ弓はその強さに対して、矢が弱いと上に飛び、重ければ下に行き、弓と矢の竹の節が等間隔でな

いと正確に飛ばず、引く位置、角度でも弓の持ち方、引き方を変えなければならぬなど、実戦で弓の命中率を高めることは優れた素材だけでなく高度な技術が必要であった。日置流が伝わる前は、古来より伝わる射法が各自まちまちのものであったと考えられるが、予備軍としての農民が実践を意識したより高度な訓練を積み重ねる必要があり、敵方に伝わらぬよう秘伝が書かれた巻物の披見を許さぬものとして口伝されてきたのが、鍋倉や小国に伝わってきた秘伝書かと思われる。また鉄砲等の登場によつて弓射が実践を離れ、形式を重んじる神事になると、巻物にある秘伝はその内容はともかく、披見を禁じることで弓射の威厳と、秘伝書を占有する者の主導的役割を保ち、競わせて代々伝授させようとする先人の意図がこめられている場合もあるとされている。

上鍋倉には小国城の宝蔵が置かれるなど深いつながりを持ち、「小国村百姓、古来射法を練習し、百姓集会弓を射・・・近村関川・温海川、木野侯、皆此習有」「有澤が領分五ヶ村百姓に射法を教え、不意の備えに充てしものと覚し。この山中に弓道を伝えて郡中一の名譽を当分残せるは全、有澤能登が余徳なり」と「筆の余り、小国、小国城の項」および同旨が「出羽国風土略記」にはつづら

小国弓射の起源は永祿10年(一五六七年)この地の重鎮に秘伝の巻物を渡したのが始まりと言われ、峠ノ山・八幡社弓祭の神事は九種類の的数を誇る大掛かりなもので、次第の中入りの後には、花取りの式という懸賞的が設けられ、観客の中の望むものに弓を射らせ懸賞の掛かったものに当たったものに賞品を与える賭弓も交え観客を楽しませることが仕組まれ、次第に娯楽として地域に溶け込んで行ったものと思われる。

終わりに本稿の記述と地元での伝承には異なる点が多々あると思いますが、伝承はそれとして尊重し伝え続けるべきで、本稿は、下記のような資料による推測に過ぎない事をご了承ください。

本稿執筆に当たり、関係各位からの様々な資料のご協力をいただき深く感謝いたします。



鶴岡村指定無形民俗文化財 小国八幡宮弓射神事  
平成27年2月22日 小国ふる里ふれあい村

- 参考書籍・資料
- ▽温海町史上巻「小国弓」
- ▽鶴岡市発行「図説 鶴岡のあゆみ」
- ▽鍋倉公民館 昭和53年3月発行 「弓あすびまき物語」
- ▽峠ノ山八幡神社弓祭協賛会 「峠ノ山八幡神社弓祭」
- ▽愛知大学発行 「三河民俗六号神事における「お弓祭り」考察
- ▽岡山大学発行 国立国会図書館蔵書 「日置流の歴史」
- ▽岩波文庫 「あずさ弓」 日本におけるシャーマン的行為G・ブランク著
- ▽文芸春秋 国境の日本史
- ▽岩波新書 刀狩り 武器を封印した民衆
- ▽学研 新・歴史群像 上杉謙信
- 協力
- ▽国立公文書館M・Y様(資料解説)
- ▽明治大学文学部民俗学博士 水谷類

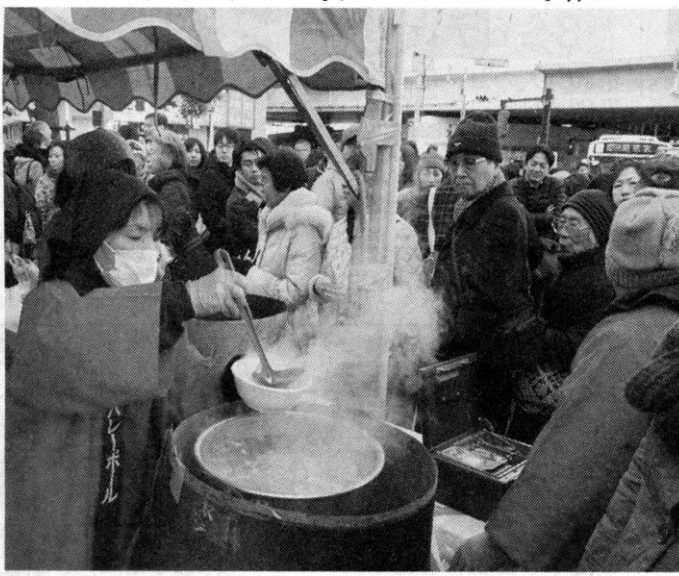


# 鶴岡の冬の味覚PR

## 江戸川区で「寒鱈まつり」盛況

日本海の冬の味覚「寒鱈」を都民に提供・PRする「鶴岡の寒鱈まつり」が11日、同市の友好都市の東京都江戸川区のTOKIビル前広場で開かれ、大勢の人でにぎわった。写真。

鶴岡市東京事務所(伊藤敦所長)主催。鼠ヶ関港で水揚げされた寒鱈で1200食分を用意し1杯500円で販売した。当日は穏やかな天候の中、午前10時に羽黒山伏がほら貝を高らかに吹奏して寒鱈汁の販売開始を告げた。鶴岡の冬を代表する味覚を自当に大勢の人が行列をつくり、午後1時ごろまでに全て完売した。今年も鶴岡市の「ユネスコ食文化創造都市認定」をPRする掲げられ、鶴岡の地酒・月山ワイン、野菜類、漬物、菓子、玉こんにゃくなどの物産展も盛況だった。



など話し、熟々の寒鱈汁を堪能していた。庄内の古里会の会員も多数来場し、「寒鱈汁にはやっぱりの日本酒だ」と地酒を酌み交わしていた。また、首都圏鶴岡会の役員、東洋

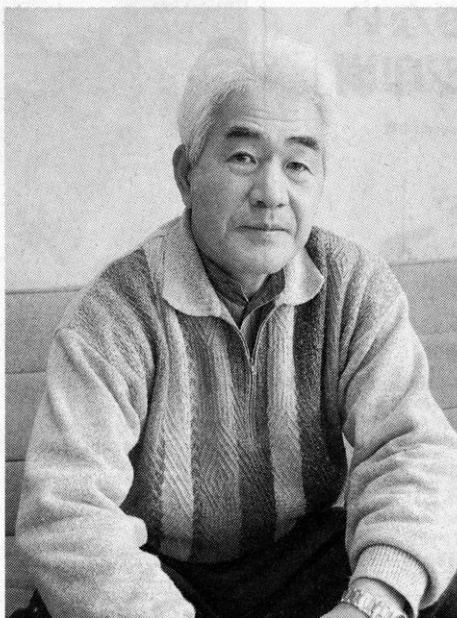
大社会学部のゼミ生、江戸川区のママさんバレーチームなどがボランティアで物産展の販売、行列の整理、寒鱈汁の盛り付けなどに参加しイベントを盛り上げた。



発行所 庄内日報社  
本社 / 〒997-0005 鶴岡市馬場町8-29 電話0235(23)1480(代表)  
通田支社 / 〒998-0045 通田市二番町6-2 電話0234(23)4244(代表)  
©庄内日報社 2006

# ひと

鶴岡市温海地域の中山間地、山五十川地区の農家をつくる「清流自然米研究会」の代表を務めて20年。農業の使用を抑え



清流自然米研究会代表

佐藤三吉さん

## 新しい世代にもおいしい米を

昔ながらの杭掛けにした米を「恋慕(れんぼ)の舞」のネーミングで全国の消費者に届けてきた。農業を取り巻く情勢は厳しいを増すが、「これが高めて米を有利販売しよう」というのが同研究会の始まり。当初は自身もまだ40代で地区の農家20戸が参加。白米や玄米に加え、炊きたてが味わえるレトルトの「バック米」などをラインアップ。旧温海町時代に首都圏の物産展などに参加し、関東を中心に北海道や沖縄まで顧客をつかんできた。

自信を持って販売する米は、はえぬきを経て現在はコシヒカリ。「清流」の下で天日乾燥した米は、歯応えや粘りがあったり「やっぱおいしい」と力を込める。自然乾燥米にこだわりの独自販路を拡大してきたとして、2013年度には鶴岡市農業発展奨励賞を受賞して

半年保存/レンジ2分  
150円/個 清流自然米研究会  
代表 佐藤三吉  
〒999-7201(炊きたての味が自慢)  
山形県鶴岡市山五十川434  
TEL 0235(45)2209  
E-mail FAX 0235(45)2224  
renbonomai-1995@wmail.plala.or.jp

### 「山形県人まつり」

主催 山形県人東京連合会  
 日時 9月6日(日)  
 午前10時30分開場  
 会場 千代田区紀尾井町  
 ホテル・ニューオータニ  
 「鶴の間」  
 参加費 10,000円  
 申込み 参加希望者は8月20日  
 まで事務局へ ※要予約

【参加総数約900名】



## 首都圏 だより

神奈川県相模原市東部にある中央区の中和田自治会は、市の東南部に位置し町田市と横浜市に接している。この自治会館で、毎年2月になると寒鰯の鍋を囲む「地域交流の集い」が行われ、今年

## 80人が庄内の味に舌鼓 相模原で寒鰯汁の集い

この地域を地盤に、相模原市議を務めていた本間俊三さん(旧温海町の山五十川出身)が、市議引退後も地域との絆を大事にしたい気持ちと、ふるさと庄内の食べ物紹介やPRを目的に6年前から続けており、このイベントは今やこの時期の風物詩となっている。食材の鰯は、鼠ヶ関で揚がったものをフリと一緒に送っていたが、調理の腕の確かな在京の鶴岡出身の方をお願いした。もちろん酒も大山から送っていただいた地酒を用意した。



「い」と本間さんは話していた。(地域交流の集い参加者 記)

### 「ただちや豆を食する会」

主催 庄内ふるさと会  
 日時 27年8月23日(日) 正午  
 会場 都営新宿線船堀下車  
 北口より1分  
 江戸川区 タワーホール船堀2F  
 参加費 3,500円  
 申込み 参加希望者は  
 7月23日(木)まで事務局へ  
 定員 650名 ※要予約

### 「家族慰安大芋煮会」 主催：山形県人会

日時 27年11月1日(日) 12時  
 会場 都営新宿線船堀 北口1分  
 タワーホール船堀2F  
 ※要予約(事務局まで)

暮らしの電気から工場の電気まで、  
デンキを見つめるホンマです。



一般ご家庭へのご提案

光熱費削減  
CO削減  
心地よい空間

ホンマ電機からの  
エコな提案

ビルオーナー様  
店舗の経営者様  
ビルの管理会社様  
事業の経営者様へのご提案

マンションの管理組合様  
団地の管理組合様  
マンションの管理法人様  
集合住宅の大家様へのご提案



株式会社 **ホンマ電機**  
代表取締役 本間 健士

〒252-0302 神奈川県相模原市南区上鶴間1-12-1  
TEL042-746-1616(代) FAX042-747-3463  
おかげさまで40周年!

お気軽にお問い合わせください。

TEL.042-746-1616

ホームページ <http://honma-denki.jp/>

節目の七十年に思う



児童疎開者  
中村三郎  
(習志野市)

私は昭和19年8月(1944年)に太平洋戦争が日増しに悪化するさなか当時の国策により学校単位の集団疎開であつみ温泉に滞在した。晩秋の頃と思うが無断外出し数名の仲間と萬国屋の裏手辺りから、山道に入りどのぐらいい歩いたかは分からぬが中腹近くで見事な枝ぶりの赤松を見た、目を落とすと眼下に点在する集落が目に入り驚いた。何と言う名の集落だろうかと疑問になったが、なにしろ無断外出のため宿に戻っても誰にも尋ねることが出来ず、以後何十年も心の奥に仕舞い込んでいた。

十数年前、板垣勘二氏と親交を持つようになり氏に尋ねたらいとも簡単に「ああ、そこは私の故郷の楨代に違いない」の答に何十年もの疑問が一挙に解決した。数年前、氏からあつみ温泉と一緒に行きませんかと誘われ、「一緒に」とき、案内されてあの時の集落の楨代に連れて

行ってもらったが正に夢のようだった。話が元に戻るが、翌年3月初め小学6年生の私たちは卒業のため帰京することになるが、帰京を告げられたときは嬉しかった。現在のあつみ温泉駅(当時地元の人たちは停車場と呼称しているのには奇異に感じた)からSL列車に乗り帰京するが、車窓から鼠ヶ関辺りを見ると家々の屋根に赤ん坊の頭ほどの石が乗っている光景に何でだろうと疑問がわいたが、この疑問は数年して理由はわかった。帰宅して数日後の3月10日の東京大空襲を自宅で体験することになる。一晩中恐怖で震えていた爆撃を終えたB29が小岩の上空を乗員の姿がちらっと見え超低空で太平洋方面に編隊を組んで飛び去った。朝になると家の近くの千葉街道(現在の国道14号線)を目を真っ赤に腫らしたモンペ姿の婦女子が、背中の赤子が息絶えているだろうが必死に背負って歩き続けて千葉へ、千葉へと逃避行の姿が半日以上続いたような記憶がある。

平成26年3月9日付朝日新聞の投書欄に作家の早乙女勝元氏が次のような文を寄せていたので、その一部をメモしておいたので記します。……また、あの日がやってくる。1945年3月10日未明、300機もの米国の爆撃機B29による無差別爆撃で東京は「炎の夜」となっ

た。下町地区は全滅に近く、100万人が家を焼け出され、10万人もの生命が絶たれた。……。因みに早乙女氏は私と同年齢です。当時私は13歳の少年だったがあの時の出来事は鮮明に記憶しており忘れられない思い出です(合掌)。今年はいれから節目の70年いつまでも平和であってほしいと願わずにはいられない。

**オフィス 勝どき**  
代表 **大泉 正**  
取扱: **メットライフ生命**  
**東京海上日動**  
鶴岡ふるさと観光大使  
羽黒派修験道山伏  
度位先達 **大泉成範**

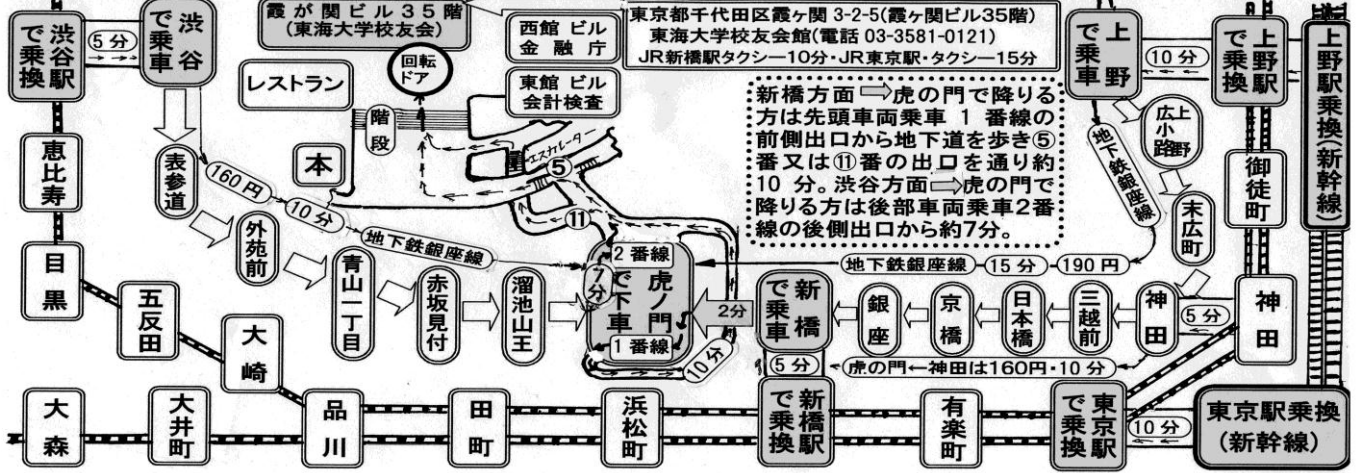
104-0054  
東京都中央区勝どき 6-3-1-3422  
FAX 03-6734-0498  
フリーフォン 0800-080-1208

**編集後記**  
ふるさと温海会結成二十周年  
IGGJ JUNE 2016

温海地域では、今年から福栄地域に地域おこし協力隊3名が配置され、木野侯、温海川、菅野代に居住しながら、地域起しの起爆剤となるべく活動します。皆さんのふるさとには多くの資源が眠っていますが、残念ながらそれを有効に使うことができません。人口減少が続く中ではありますが、この豊かな資源を見直し、利用して活性化に取り組みたいです。そのためには会員の皆さま方との連携が不可欠でありますので、ふるさと温海の応援団としてこれまで以上のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。すとも、ふるさと温海会が四十周年、五十周年に向け益々発展されることを祈ります。

(温海庁舎 五十嵐)

H27年総会・交流会は東海大学校友会館(霞ヶ関ビル35階)



# あつみ温泉旅館一覽

おいしい料理とあったか温泉の宿を一挙に紹介！

あつみ温泉をもっと満喫するは、やっぱり宿に泊まって一日ゆっくりするのが一番！

## あつみホテル 温海荘



☎0235(43)2888  
 20室  
 立ち寄り入浴できます(500円)

天然温泉掛け流しの湯で、ゆったり素朴な時の流れを楽しみ、海山川の新鮮な素材を味わう和風の宿です。名物の朝市・足湯は宿のすぐ側です。

## あさひや旅館



☎0235(43)2002  
 8室  
 立ち寄り入浴できます(500円)

「心と心、ふれあいの宿」がモットーの木ぬくもりが心地良い連泊滞在型旅館。良質な温泉、新鮮な食材の日替わり献立が好評。

## あづまや 東屋旅館



☎0235(43)2345  
 6室  
 立ち寄り入浴できます(500円)

四季の移ろいを感じながら、旬の素材を大切にした山海料理をお楽しみください。家庭的な雰囲気でお客様をお迎え致しております。

## かしわや旅館



☎0235(43)2011  
 7室  
 立ち寄り入浴できます(500円)

庄内浜直送の新鮮な魚介類を使用。素材が良いから料理も美味しい。味は心なりの。館主自ら腕をふるいます。ぜひ一度お越しください。お待ちしております。



観光客でにぎわう あつみ温泉「かじか通り」

## たきのや 瀧の屋



☎0235(43)3025  
 12室  
 立ち寄り入浴できます(600円)

古さを生かした木の温もり溢れる和風の宿です。風呂は明るく、大きな窓から陽の光が湯浴みへ、更に清々しくします。横光利一逗留の宿。

## 高見屋別邸 久遠



☎0235(43)4119  
 57室  
 立ち寄り入浴できます(600円)

あつみ温泉入口に建つ趣きのあるモダン和風旅館。地産食材中心のお料理・源泉掛け流しの露天風呂でみなさまのお越しをお待ちしております。

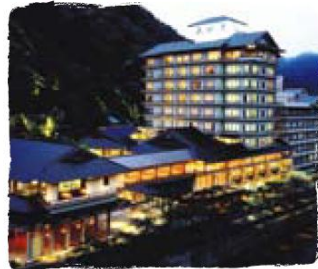
## たちばなや



☎0235(43)2211  
 78室  
 立ち寄り入浴できます(事前にお問い合わせ下さい)(1,000円)

錦鯉の泳ぐ大きな池、季節の花々四季折々の表情を見せる日本庭園心やすらぐ日本の風情をお楽しみいただく宿です。

## ばんこくや 万国屋



☎0235(43)3333  
 135室  
 立ち寄り入浴できます(事前にお問い合わせ下さい)(1,000円)

大型旅館ながら、お風呂、お料理、特に客室係の細やかなおもてなしには定評があります。新装になった庭園露天風呂、リラクゼーション施設も好評。

観光、ご宿泊のお問合せは

**あつみ観光協会** TEL 0235-43-3547  
<http://www.atsumi-spa.or.jp>

【あつみ観光協会ブログ】毎日更新中。旬の話題やおすすめ情報を発信していきます。ぜひご覧ください！